

坂田光子 & 竹内雅一

ジョイントコンサート

with

寺田弦楽四重奏団



2014. 3. 9 Sun.

足寄町民センター

* Program *

- ♪ *Ralph Vaughan Williams : 6 studies in English folksong*
R. ヴォーン・ウィリアムズ : イギリス民謡による6つの練習曲
- ♪ *Felix Mendelssohn Bartholdy : Concert Piece No. 1 Op. 113*
F. メンデルスゾーン : 演奏会用小品第一番 作品113
- ♪ *Heinrich Joseph Baermann : Adagio for Clarinet and Strings*
(2nd movement from *Clarinet Quintet No. 3 in E b Op. 23*)
H. J. ベールマン : クラリネットと弦楽のためのアダージョ
(クラリネット5重奏曲変ホ長調作品23より 2楽章)

~~~~休憩 (15分) ~~~~

- ♪ *Wolfgang Amadeus Mozart : Ave verum corpus*  
W. A. モーツァルト : アヴェ・ヴェルム・コルプス
- ♪ *Johan Sebastian Bach : Jesu, joy of man's desiring*  
J. S. バッハ : 主よ人の望みの喜びよ
- ♪ *Dirk Brosse : Elegy*  
D. ブロッセ : エレジー
- ♪ *Felix Mendelssohn Bartholdy : Concert Piece No. 2 Op. 114*  
F. メンデルスゾーン : 演奏会用小品第二番 作品114

## \* Player \*



### ・坂田 光子：バスクラリネット、バセットホルン

足寄町出身。足寄小学校3年生からクラリネットを始める。

名古屋芸術大学器楽科卒業、同大学大学院修了。

第35回名古屋芸術大学主催卒業演奏会出演。

ベルギー王立アントワープ音楽院にてマスター取得。

在学中にロイヤル・フランダース・フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラアカデミーに参加。

クラリネットを竹内雅一、村井使徒美の各氏に、バスクラリネットを藤井香織、青山映道、ヤン・ギュンスの各氏に師事。



### ・竹内 雅一 クラリネット

名古屋芸術大学音楽学部器楽科卒業。クラリネットを小松孝文、山田喜代一、千葉国夫の各氏に師事。フランス・ニース夏期国際アカデミーにてジャック・ランスコ、ワルター・ボイケンスの両氏に師事。ベルギー・アントワープ王立音楽院に留学。スペリアルコースにてワルター・ボイケンス氏に師事すると同時に同氏のクラリネットク

ワイヤーのメンバーとしてコンサート、レコーディング等に参加。フリー・インプロヴィゼーションをフレッド・ファン・ホーベ氏に師事。

セントラル愛知交響楽団、韓国マサンフィルハーモニーオーケストラ等との協奏曲の共演をはじめ、アジア、ヨーロッパなどで活発な演奏活動を行なう。2007年には、元ザ・スパイダースの井上堯之氏、ピアニストの松永祐未子氏と共に“*Feelingly*”をリリース。

指揮活動においては、名古屋市消防音楽隊を始め、数多くのオーケストラや吹奏楽団で客演指揮や指導を精力的に行なっており、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラの指揮者として国内はもとより、アメリカ、オーストラリア、韓国、ベルギー、アイルランド、オーストリア等海外での公演を行なっている。2002年には香港で行なわれた音楽祭に招かれ、審査やワークショップ等を行なった。また、オランダのde haske社より名古屋芸術大学ウィンドオーケストラを指揮したCDがこれまでに10枚以上リリースされている。

この他、横浜国際音楽コンクール、大阪国際音楽コンクール等の審査員も務めている。元セントラル愛知交響楽団契約団員。

現在、名古屋芸術大学大学院音楽研究科・音楽学部教授、クラリネット協会・名古屋理事長、岡崎音楽家協会会員、フランス音楽研究会会員、日本室内楽アカデミー会員。



### ・寺田弦楽四重奏団

弦の国チェコ共和国で活躍し現在セントラル愛知交響楽団コンサートマスターを務める寺田史人を中心に同楽団メンバー（神野玲子、依田郁子、石橋隆弘）により結成された弦楽四重奏団。

### ・寺田 史人 1st.ヴァイオリン

明治大学経営学部卒業。桐朋学園大学音楽学部ディプロマコース在籍中プラハ音楽院に合格。

2000年9月よりプラハ音楽院にて研鑽を積む。チェコ共和国カルロヴィ・ヴァリシンフォニーオーケストラ第1ヴァイオリン奏者を経て、西チェコシンフォニーオーケストラコンサートマスターとして活躍、2008年4月よりセントラル愛知交響楽団コンサートマスターに就任。第16回ぐん

ま新人演奏会出演。アジアユースオーケストラ、PMFオーケストラに参加。2003年より毎年夏に東京、群馬等でリサイタルを開催。チェコシンフォニーオーケストラでは、ソリストとしてもチャイコフスキー、ドヴォルザーク他協奏曲等数多く共演。寺田弦楽四重奏団、プチャーテルアンサンブルメンバー、ヤマハミュージック東海講師。これまでに、小谷公子、辰巳明子、山口裕之、J. フォルティン、J. ターリッヒ、室内楽をO. バルツァー、M. ランガー各氏に師事。

## ・神野 玲子 2ndヴァイオリン

愛知県立明和高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部を卒業。1997年、セントラル愛知交響楽団に入団。故近藤フミ子、故上田明子、マキシム・フェドトフ、守岡輝、進藤義武、ミヒヤエル・ヴァイマン、四方恭子の各氏に師事。室内楽を進藤義武、天野武子、ルドヴィト・カンタ、福本泰之の各氏に師事。また「アフィニス夏の音楽祭」に参加し、マスタークラスにおいてアンドレアス・レーン氏に師事。愛知県立明和高等学校音楽科非常勤講師。

## ・依田 郁子 ヴィオラ

10歳よりヴィオラを始める。武蔵野音楽大学卒業。2000年セントラル愛知交響楽団に入団。ヴィオラを故ウルリッヒ・コッホ、磯良男、小野聡の各氏に師事。室内楽を萩原耕介、クレメンス・ドルの各氏に師事。また、ドイツ・バインハイムで小林秀子氏、草津国際アカデミーで、セルジュ・コロー氏のマスタークラスを受講。

## ・石橋 隆弘 チェロ

16歳よりチェロを始める。武蔵野音楽大学卒業。同大学卒業演奏会出演。桐朋オーケストラアカデミー修了。2001年セントラル愛知交響楽団に入団。これまでに、内田勝彦、勝田聡一、北本秀樹の各氏に師事。室内楽をクレメンス・ドル、藤原浜雄、エレオノーレ弦楽四重奏団、東京カルテット、藤井一興の各氏に師事。オーケストラ奏者としての傍ら、高校、大学オーケストラのトレーナーや、後進の指導にあたっている。愛知県立明和高等学校音楽科非常勤講師。

主催：ジョイントコンサート実行委員会

後援：足寄町教育委員会  
ピグレット音楽教室

## \* Music \*

### ・R. ヴォーン・ウィリアムズ：イギリス民謡による6つの練習曲

グロスターシャー州ダウンアンブニーに生まれる。ロンドンの王立音楽大学で作曲を学び、在学中にホルストと知り合い親交を深める。民謡の採集や教会音楽の研究を通して独特の作風を確立し、イギリス人による音楽の復興の礎を築いた。イギリスの田園風景を彷彿とさせる牧歌的な作風は、広くイギリス国民に愛されている。

〈イギリス民謡による6つの練習曲〉は1926年、チェロとピアノのために書かれた作品であり、その後作曲者自身により、ヴァイオリン・クラリネット・サクソ・チューバなど様々な楽器のために編曲されている。

1. *Adagio* ('*Lovely on the Water*') in E modal minor
2. *Andante sostenuto* ('*Spurn Point*') in Eb
3. *Larghetto* ('*Van Dieman's Land*') in D modal minor
4. *Lento* ('*She Borrowed Some of her Mother's Gold*') in D
5. *Andante tranquillo* ('*The Lady and the Dragoon*') in G
6. *Allegro vivace* ('*As I walked over London Bridge*') in A modal minor

### ・F. メンデルスゾーン：演奏会用小品第一番 作品113

ドイツロマン派の作曲家、指揮者。哲学者モーゼスを祖父、作曲家ファニーを姉として生まれたメンデルスゾーンは、神童として幼少期から優れた音楽の才能を示したことで知られる。ヴァイオリン協奏曲や「夏の夜の夢」、「フィンガルの洞窟」、無言歌集など今日でも広く知られる数々の楽曲を生み出している。

演奏会用小品は1832年年末から1833年年頭にかけて、ハインリヒ・ヨーゼフ・ベールマンとその息子カール・ベールマンのために作曲された。2曲とも当初クラリネット、バセットホルン、ピアノという編成で作曲されたが、双方に管弦楽伴奏版が存在するため、協奏曲形式で演奏されることもある。

第一番は、1832年12月30日、サンクトペテルブルクへの演奏旅行の途中でベルリンに滞在していたベールマン親子に依頼され、二人のために書かれた。料理上手だったベールマン親子が若き作曲家に振る舞う皿の準備に取りかかっていた時、隣の部屋でメンデルスゾーンが筆を進めたものと伝えられている。

単一楽章だが、全3部に分けることができ、古典的な協奏曲の3楽章構成が凝縮されている。

第1部 *Allegro con fuoco* ヘ短調、4/4拍子

第2部 *Andante* 変イ長調、9/8拍子

第3部 *Presto* ヘ長調、6/8拍子

### ・H. J. ベールマン：クラリネットと弦楽のためのアダージョ

ベールマンはミュンヘンの19世紀前半を代表するクラリネットの名手の一人である。またウェーバーやメンデルスゾーンなどの作曲家も数多くの作品をベールマンのために作曲している。

ベールマン自身もクラリネットの作品を残しており、クラリネット5重奏曲は3曲残されている。今回演奏するのは第3番の2楽章で、ブライトコプフ&ヘルテル版から出版された際に、ワーグナー作曲と間違われたことから注目を集める。

## ・W. A. モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス

この曲はモーツァルトが、妻コンスタンツェの療養を世話した合唱指揮者アントン・シュトルのために作曲したものである。簡素な編成でわずか46小節の小品だが、絶妙な転調による静謐な雰囲気から、モーツァルト晩年の傑作とされる。

## ・J. S. バッハ：主よ人の望みの喜びよ

バッハが1723年に主の母マリア訪問の祝日のために作曲したと推測される教会カンタータ、「心と口と行いと生活で」の第6曲と第10曲に登場するコラール。

## ・D. ブロッセ：エレジー

ベルギー生まれの作曲家・指揮者のディルク・ブロッセが友人であるバスクラリネット奏者、ヤン・ギュンスの為に書いた作品。

1999年にバスクラリネットとピアノの為に書かれた作品を、弦楽四重奏版にアレンジしたものの。

彼の作品は管弦楽・室内楽の他に、劇音楽やミュージカル、映画音楽などがある。

## ・F. メンデルスゾーン：演奏会用小品第二番 作品114

1833年1月19日、第1番の出来に満足したハインリヒ・ヨーゼフ・ベールマンとその息子カール・ベールマンに依頼され、二人のために書かれた。作曲後すぐ、ケーニヒスベルクに滞在していたベールマン親子のもとに送られた。同封された手紙には、下に示すようなユーモアに溢れた解説が付されている。管弦楽伴奏版の成立は不明だが、カール・ベールマンが管弦楽配置を行ったと考えられている。

第1部 *Presto* 二短調、2/2拍子

管弦楽版では4小節の前奏が追加されている。独奏のユニゾンに始まり、二人の小カデンツァを挟んでテンポを速めて結ばれる。「あなたの主題を基にしています。あなたがシュテルン氏("Herr Stern")の全財産をカード遊びで巻き上げ、烈火の如く怒らせたところを想像してみました」とメンデルスゾーンは説明した。

第2部 *Andante* へ長調、6/8拍子

バセットホルンのアルペジオの上でクラリネットが美しい旋律を歌う。やはり作曲者によると「先日のディナーの思い出。クラリネットは料理を待ちわびる私。バセットホルンのはのたうち回る買袋です」という。

第3部 *Allegro grazioso* へ長調、2/4拍子

快活なロンド。三度のユニゾンが多用され、1番のものより落ち着いた色調を持つ。「演奏旅行で訪れるロシアの気温に合わせて、わざと"冷たく"書きました」という。